

広島市文化財団ベンチマークス(江波山気象館)平成28年度実施結果

使命 (ミッションステートメント)					
		江波山気象館の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島市の科学館の一員としての気象専門博物館</li> <li>・こどもが安心してすごせる居場所づくり</li> <li>・市民が社会貢献する場の提供</li> <li>・被爆に関する調査研究と平和学習の支援</li> </ul>		
		基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親しまれる、楽しい博物館</li> <li>・気象情報の拠点となる博物館</li> <li>・広く社会と連携する博物館</li> <li>・歴史を伝える博物館</li> <li>・ホスピタリティあふれる博物館</li> </ul>		
		事業の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員のスキルを生かした事業の実施</li> <li>・消防等防災関連機関への協力、温暖化をはじめとする環境問題への対応</li> <li>・館外出前事業 ⇒ 「移動科学館」の充実</li> <li>・気象情報提供の強化</li> <li>・地域、学校、企業、団体等との連携</li> <li>・ボランティア活動範囲の拡大及び組織化</li> <li>・被爆・気象の歴史を後世に伝えるための事業の実施</li> <li>・来館者サービスの徹底</li> </ul>		
事業領域	領域目標	事業	事業目標	目指す成果(業績指標)	目標値
教育普及	気象をメインテーマに、自然・科学・歴史・文学・芸術など様々な視点から、人間と世界のつながりを示す	展示事業	楽しく、発見と新鮮さのある独自性の高い展示の提供	楽しかったと感じた入館者の割合	90%→98%
			被爆関連資料の活用	新しい知識や発見を得られたと答えた利用者の割合	80%→72%
		講座・教室事業	参加者の知的好奇心をくすぐり、科学する心を育む	面白かったと感じた参加者の割合	90%→100%
				気象や科学に興味を持った参加者の割合	80%→84%
		気象事業	よりわかりやすい気象情報の提供	江波山気象館がHPで発信する気象情報を利用したことがある利用者の割合	20%→33%
				HPで発信する気象情報を利用して、わかりやすいと感じた利用者の割合	80%→88%
移動科学館	移動科学館の充実	館が企画・実施した移動科学館の実施件数	60回→68回		
調査研究	気象等に関する研究と学習の拠点となる	資料収集・保存管理事業	気象資料等の、適切な整理・保存・管理を行う	所蔵する気象資料等のデータベース化できた件数	2件→ 0件
		調査研究事業	気象資料等を活用した調査や展示、学習プログラムの作成	気象に関する調査等の成果の公表・発表、講演会講師等の回数 展示や学習プログラム等の新規作成件数	15回→15回 5件→14件
連携 学習支援	学校教育や地域活動等と連携して、事業内容や利用者の多様化をはかる	学校教育との連携	地球温暖化・環境問題への対応	出前事業や団体対応で地球温暖化や環境問題についての質問等に対応した件数	5件→4件
			ニーズの把握と利用形態に即した対応	学校団体見学における特別メニューの実施率 次回も江波山気象館を利用したいと感じた教師の割合	80%→91% 90%→99%
		地域活動等との連携	児童館や公民館等と連携し、こどもの居場所づくりや市民の学習活動の支援	出前授業等の後に面白かった、興味が高まったと答えた児童の割合	90%→100%
			他の専門機関や、団体等との連携事業の実施	連携先の担当者が当館との連携が有意義であったと感じた割合	90%→100%
学芸員実習・職場体験	博物館の理解を深め、将来の博物館等で活動できる人材の育成	実習等を通じて博物館への理解や関心が高まったと感じた実習生の割合	90%→100%		
市民活動 支援・協働	ボランティア活動の場を提供するとともに、博物館活動の可能性を広げる	ボランティア養成・活用	ボランティアの導入と組織化	事業におけるボランティア等の実施率 ボランティアからの自発的な要望(提案)により実現した事業の数 ボランティアの定着率	30%→27% 1件→2件 80%→76%
			ボランティア導入による来館者サービスの向上	ボランティアの指導に好感を持った利用者の割合	80%→99%
施設管理	ホスピタリティあふれる博物館	来館者サービスの向上	親しまれる博物館の実現	ミュージアムショップについて、品揃え、価格帯について満足した人の割合 職員の対応について好感を持った利用者の割合	30%→34% 80%→93%
			利用者ニーズの把握と実現	施設の利用について不満を感じた利用者の割合	10%→9%
				利用者ニーズに対する実現件数	5件→4件